

2014年度 事業報告書

自 2014年4月1日

至 2015年3月31日



特定非営利活動法人 開発教育協会 (DEAR)

第32回全研は、
聖心女子大学で開催!
**「ESDの10年と開
発教育」**

をテーマに257名が参加

開発教育メールマガジン
登録者数
3月末現在**2,608名!**
(前年比+298名)

(公財)公害地域再生センター
と、(特活)さっぽろ自由学校
「遊」と共同で**「ESD政策への
市民参加に関する提言」**を作
成し、**44団体**から**賛同**が集
まりました。

売上 No.1 教材
は、『ワークショップ版
世界がもし100人の
村だったら』で
886冊販売!

**グローバル
エクスプレス教材**
「過激派組織による人質
事件」発行。**200件**の
ダウンロード、メディアでも
取り上げられました

85件・223回
講師を派遣しました。
延べ参加者数はおよそ
7,000人

2013~2017年度
中期重点事業
2年目の活動を
実施しました



Facebook
公式ページを開設
「いいね!」数
増加中! 

mini教材体験フェスタ
2015には、全国各地
から関係者を含め
107名が参加

1. はじめに ～ 2014年度を振り返って ～

経済のグローバル化が進む中で、世界的な経済・金融危機、気候変動といった地球的課題は深刻化し、貧富の格差の拡大や環境破壊などをもたらしています。また、ISIS などの過激派組織によるテロは、世界各国で、現在も暴力の連鎖を生んでいます。

国内に目を向けると、沖縄の基地問題や、福島原発事故後の、地域や住民にかかる様々な負担など、都市が地方に大きく依存する構造や、差別や格差を生み出す社会のあり方が見えてきます。それにもかかわらず、一人ひとりの人権や生活よりも、経済発展や効率重視の政策がすすんでいます。

市民の意思が十分に反映されない政治や経済のあり方に大きな不安を覚えます。

このようなグローバル化の影響は、教育にも大きく影響しています。貧困や格差の増大がそのまま教育の機会の喪失につながるとともに、学校の現状や子ども達の実態に基づかない教育政策が進んでいます。

政府が謳う「グローバル人材」については、その内容を十分に議論されないまま、せまい意味での人材育成に力が入られています。

2014年度は、中期計画2年目になります。また、今年度は「国連持続可能な開発のための教育の10年」の最終年にあたり、「ESD 政策への市民参加に関する提言」を出して賛同を集めるなど、重点事業4が進展しました。

また、年度当初に計画した5つの領域「Ⅰ. ネットワーク事業」「Ⅱ. 実践・研究事業」「Ⅲ. 情報・出版事業」「Ⅳ. 研修・講座事業」「Ⅴ. 政策提言事業」においては、概ね事業計画通りに各種事業を実施することができました。

参加を重視するという点では、全国研究集会で難聴者のための IP トークによるノートテイクや、手話通訳を導入するなど、全ての人が安心して参加するための学びの場づくりをすすめています。

まず、4つの各中期重点事業について、ご報告いたします。尚、各事業にかかわったメンバーについては、p.14～15をご覧ください。

<中期重点方針>

1. 現在の開発のあり方やグローバル化がもたらす不正を構造的に捉え広く発信する
2. 「世界は変えられる」という思いに基づき行動する人を増やす

重点事業 1.

「グローバル化と開発問題」研究会の実施

グローバルな諸課題を開発教育的な視点で捉え、その視点を提示することを目的に研究会「グローバル化と開発問題」研究会を立ちあげ、以下のように、研究会活動を実施した。

●第3回研究会(2014年度第1回研究会)

日時:2014年4月18日(金)17:00～20:00

内容:第1回研究会で割り当てたテーマ担当者から報告を受け、意見交換をした。

●第4回研究会(2014年度第2回研究会)

日時:2014年5月16日(金)17:00～20:00

内容:これまでの議論を受けて、再度、重要と考える課題のプレストをし、キーワードを模造紙上で整理した。

●第5回研究会(2014年度第3回研究会)

日時:2014年6月27日(金)17:00～20:00

内容:『新・世界経済入門』(西川潤、岩波新書、2014)をもとに、新たな論点や疑問点等について、意見交換をした。その後、開発教育として提示するオルタナティブの価値尺度(キーワード)を出し合い、第4回会議で出されたキーワードの模造紙上に整理しながら追加した。

●第6回研究会(2014年度第4回研究会)

日時:2014年9月11日(木)15:00～18:00

内容:第4回研究会で整理したキーワードを各メンバーが分担し、それらに関連する具体的な世

界の開発問題事例を持ち寄った上で、各事例を第 6 回会議で出した価値尺度をもとに分析し、意見交換した。

●第 7 回研究会(2014 年度第 5 回研究会)

日時:2014 年 10 月 24 日(金)15:00~18:00
内容:第 6 回研究会と同様、具体的な開発問題の事例を価値尺度をもとに分析した。その後、成果物の執筆分担をした。

●第 8 回研究会(2014 年度第 6 回研究会)

日時:2014 年 12 月 19 日(金)15:30~18:00
内容:各執筆担当部分について、構成案をもちより報告、意見交換した。

●第 9 回研究会(2014 年度第 7 回研究会)

日時:2015 年 2 月 13 日(金)15:30~18:00
内容:2014 年度活動評価と 2015 年度活動計画を行った。

重点事業 2.
公正な社会づくりへ参加するための
アクションの支援

公正な社会づくりに向けた多様なアクションの可能性を示し、アクションの意識喚起につながる活動を実施するために、身近なアクションの事例や方法を収集し、『アクション・ハンドブック(仮称)』の作成を計画。検討会議を4回実施したほか、評議員会や常任役員会でも議論した。ハンドブックの発行は 2015 年度を予定している。

●第 1 回検討会議

日時:2014 年 12 月 15 日(月)19:00~21:30
内容:「自分のやったアクション」と「そのきっかけ」を共有し、意見交換をした。

●第 2 回検討会議

日時:2015 年 1 月 10 日(土)10:00~12:30
内容:各自の提案を共有した後、アクションを「ハードル高い/低い/1 人でできる/皆でやる」の 4 象限に分類、意見交換を行った。

●第 3 回検討会議

日時:2015 年 2 月 9 日(月)19:00~21:00
内容:アクション項目の 4 現象の分類の後、「やったことがある/ない」「社会へのインパクトが大きい

／小さい」の 2 現象に分類。また、常任役員会からの提案「民主的な合意形成」について意見交換を行った。

●第 4 回検討会議

日時:2015 年 3 月 11 日(水)19:00~21:00
内容:ハンドブックの対象者やねらいを文章化したたたき台をもとに検討し、アクション項目と象限の精査を行った。さらに、成果物のイメージや入れ込みたい要素を共有し、具体的な項目づくりを行った。

重点事業 3.
国内外の開発問題を多様な人たちと話し合う
場づくりの支援

身近な開発問題や賛否両論ある問題について対話し学ぶ場が広がるように、そのためのファシリテーター研修やツール作成を実施する。具体的には 2015 年度より事業を行う予定。

重点事業 4.
教育政策に関する調査・ネットワークづくり

2005 年から始まった国連「持続可能な開発のための教育の 10 年」の最終年を迎え、名古屋にて「ESD ユネスコ世界会議」が開催された。これを機に、ESD の政策策定への市民参加を提案するために、提言書を作成して賛同を集めたり、世界会議の併催イベントにおいてブース展示や分科会を持つなど、関係者に積極的に働きかけた。

また、3 月には「ESD ステイクホルダー会議」を開催し、関係省庁に対して、市民側の意見を届けることができた。

<実施概要>

1)「ESD 政策への市民参加に関する提言書」の提案・賛同依頼

(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)、(特活)さっぽろ自由学校「遊」と共同で、ESD に関連する政策への市民参加に関する提言をまとめた。本提言には、第一次募集で 26 団体の賛同をいただき、去る 11 月 10 日~12 日に開催された「ESD ユネスコ世界会議」に参加している 国内外のゲストに広く頒布するとともに、11 月 13 日(木)開催の「ESD ユネスコ世界会議フォローアップ会合」に提出した。さらに、二次募集を行い、44 団体の賛同を得ることができた。

2)「ESDに関するユネスコ世界会議」(2014年11月10日～12日)併催イベントで分科会実施
「ESD あいち・なごや宣言文」案に、「ESDの政策策定への市民参加の重視」を反映させるよう、海外の複数のNGOとともに働きかけた。その結果、いくつかの提案が反映された。具体的には、政策実現のための資源配分や組織強化がノンフォーマル教育についても必要であることや、政策や実施主体として、他のステイクホルダーと併せて「市民社会」が明記されたことである。

また、この過程で国境を超えた市民団体と問題意識を共有するとともに、今後は市民が政策策定や意思決定に参加する仕組みが必要であり、そのための市民のネットワーク作りを共に推進することが確認された。

併催イベントではセミナー「マイノリティの視点に立ったESD～地域の事例と今後のための提案」を、発起人3団体の主催で開催。現在のESDでは、耳を傾けられるべき声が聴かれていないのではないかという問題意識を発信し、参加者とともに意見交換した。またこの様子がメディアにも取り上げられた。



3)ESDステイクホルダーミーティング2015 (2015年2月28日)の開催

ESD ユネスコ世界会議以降のESDの取り組みについて、さまざまな実践現場や教育分野で活躍するNGO/NPO関係者、学校関係者、政府機関関係者等が一同に会し、教育実践や政策に関する情報やそれぞれの目指す方向性を共有した。さらに、今後すべきことやそのために必要な資源やネットワーク等について、参加者も交え意見交換を行った。

<概要>

日時:2015年2月28日(土)13:00～17:30

会場:JICA横浜

協力:(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)、(特活)さっぽろ自由学校「遊」

助成:地球環境基金

後援:JICA横浜

参加者:約80名



2. 各種事業報告

I. ネットワーク事業

ネットワーク事業は、国内外の開発教育及びESD関係者と実践経験を共有し、開発教育の普及、深化をはかることを目的としている。今年度は、ネットワークを土台に、何を目指すか、政策提案への戦略も含めて課題を共有した。

1)「担い手」連携強化事業

地域の開発教育の担い手とのネットワーク維持・強化につとめた。

2月28日～3月1日の日程で、JICA横浜(神奈川県横浜市)にて「市民による教育ネットワーク会議」を開催。参加者は「ESDステイクホルダーミーティング」にも参加することとし、開発教育・ESD実践者として自らの実践をより広い視点からふりかえり、幅広い実践現場の参加者と共有できるような内容とした。分科会は、参加者から提示された「変革のための教育」「市民エンパワメント」「企業のESD」「権利アプローチ」など7つのディスカッションテーマで議論を深めた。さらに、分科会で出された課題のうち「学校とESD」「実践共有会」「政策提言」などいくつかについて今後のアクションを具体化。そこから新たなプロジェクトや試みを始めようという参加者のネットワークの芽も見られた。

<概要>

市民による教育ネットワーク会議

日時:2月28日(土)19:30~21:30、3月1日(日)
9:00~14:00

場所:JICA横浜

協力:(公財)公害地域再生センター(あおぞら財団)、(特活)さっぽろ自由学校「遊」

助成:地球環境基金

後援:JICA横浜

参加者:40名

部数:200部

助成:地球環境基金



2)ESD 実践評価指標の作成と普及

2013年度に発行した『ESD・開発教育実践者のためのふりかえり・自己評価ハンドブック』をもとに、ESD 評価指標の普及版として『ESD・開発教育実践者のためのふりかえりツールキット』を作成。また、海外への発信を目的に、同冊子を英訳し『A Reflection and Self-assessment Handbook for Practitioners』として発行。名古屋で開催された「ESD ユネスコ世界会議」をはじめとする国内外のESD 関連会議・イベント等で広く頒布・周知するとともに、全国各地のESD 実践者に郵送した。

また、「市民による教育ネットワーク会議」において「実践共有ワークショップ」を実施。事前に各参加者が自身の実践をワークシートに記入しふりかえった上で、当日はグループごとにそのシートに沿ってふりかえりを共有した。

さらに、『ふりかえり・自己評価ハンドブック』を活用した実践ふりかえりを支援する目的で、「開発教育ファシリテータースキルアップ講座『実践をふりかえる』」を開催。事前に記入したワークシートを元に、グループワークで自分たちの実践をふりかえりながら、そのプロセスや視点、方法を学びあった。

これらの活動と並行して、ESD 実践者のふりかえりを支援するワークショップやファシリテーションのあり方について検討するために、「自己評価・ふりかえり指標作成」部会で議論した。

<概要>

■『ESD・開発教育実践者のためのふりかえりツールキット』の発行と頒布

発行日:2014年10月31日

体裁:A4 サイズ(変形)外側ケース、カード(6種類)、付属CD

部数:1000部

助成:地球環境基金

■『A Reflection and Self-assessment Handbook for Practitioners』の発行と頒布

発行日:2014年11月4日

体裁:A4 サイズ 54 ページ

■「開発教育ファシリテータースキルアップ講座『実践をふりかえる』」の開催

実施日時:2014年9月23日 13:30~17:00

場所:富坂キリスト教センター1号館会議室

参加者:学校・地域等のESD 実践者、NPO・NGO 関係者等、計15名

助成:地球環境基金

■「自己評価・ふりかえり指標作成」部会の実施

●第1回研究会

実施日時:9月3日(水)19:00~21:00

場所:DEAR 資料室

内容:8月10日実施ワークショップ「開発教育・ESD 実践者の学びをふりかえる」のふりかえりと、今後のふりかえりワークショップのありかたを検討。

●第2回研究会

実施日時:9月23日(火)17:30~18:30

場所:DEAR 資料室

研究協力者:阿部眞理子(IVY)、山中信幸(柳学園中学・高校)

内容:9月23日実施ワークショップ「開発教育ファシリテータースキルアップ講座『実践をふりかえる』」のふりかえりと、ふりかえりを支援するファシリテーターのあり方を検討した。

●第3回研究会

実施日時:12月26日(金)15:00~17:30

場所:DEAR 資料室

内容:ふりかえりワークショップの方法について検討するとともに、ふりかえりを支援するファシリテーションのあり方について、今後どのような実践研究をするか議論した。

●第4回研究会

実施日時:2月5日(木)17:00~18:30

場所:DEAR 資料室

内容:ふりかえりを支援するファシリテーションのあり方を検討する目的で、3月15日(日)に実施予定の拡大研究会について、その実施計画を話し合った。

●拡大研究会

実施日時:3月15日(木)10:00~16:00

場所:早稲田大学にて

研究協力者:湯本浩之、星久美子、八木亜紀子(開発教育協会)

内容:ふりかえりを支援するファシリテーションについて検討するために、研究協力者にふりかえりのアクティビティを実践してもらい、その様子を録画。その後どの質問がどう機能しているかを、録画を分析して検討した。

3)海外ネットワーク事業

①ASPBAEへの参加

DEARが団体会員になっているアジア南太平洋基礎・成人教育協議会(ASPBAE)の理事会が2月9日~12日にラオスで開催され、当会の代表理事の上條直美が出席し、アジア太平洋地域のNGOと積極的に情報共有を行った。

2014年度はASPBAE設立50周年にあたり、1年間を通して記念事業がアジア太平洋各地で開催され、日本でも5月24日に「ポスト2015教育アジェンダに向けたオープンセミナー」(ナショナルコンサルテーション)を開催した。

また、11月に名古屋で開催された「ESD ユネスコ世界会議」において、「ESD あいち・なごや宣言文」案に、市民の声を反映させるよう、ASPBAEメンバーや国内外の複数のNGOとともに働きかけた。

さらに、ASPBAE設立50周年を記念した「Festival of Learning」が、2014年11月18日~21日にインドネシアで行われ、当会理事の三宅隆史と、職員の星久美子が参加した。32カ国から66のアジア太平洋地域で教育活動を行う市民団体やネットワーク団体などが参加し、合計126名が集まる大会となり、参加者同士の実践・意見交換が活発に行われた。

②第2回ユネスコ地球市民性教育(GCED)フォーラム参加

フランス・パリのユネスコ本部で開催された標記フォーラムに事務局の中村絵乃が参加した。会議の目的は、「ポスト2015」の教育アジェンダのなかで、地球市民性教育(GCED)の内容と行動枠組みを検討することであった。世界各国の参加者と開発教育やESD、GCEDに関する情報共有や議論、ネットワーク作りを進めた。

また、会期中に、フランスの地球市民性教育(開発教育)プラットフォームが主催するセミナーにゲストとして招かれ、日本の開発教育について報告した。尚、本会議の渡航費の一部はDEEEP(EUのNGO連合体CONCORDの開発教育プロジェクト)より助成いただいた。

<概要>

会議名称:Second UNESCO Forum on Global Citizenship Education(GCED)

Building peaceful and sustainable societies: preparing for post-2015

『第2回ユネスコ地球市民性教育フォーラム 平和で持続可能な社会をつくる:ポスト2015に向けて』
日程 2015年1月28日(水)~30日(金)

場所:ユネスコ本部(フランス・パリ)

II. 実践・研究事業

開発教育の研究実践活動の質的な深化や向上に向けて、関連する教育的課題や今日的課題などに関する調査研究活動を行った。全国研究集会はESDをテーマに開催した。

1)「開発教育研究会」

①「グローバル化と開発問題」部会

重点事業1(p.2)を参照

②「開発教育アーカイブ」部会

<概要>

昨年度に引き続いて、日本における開発教育の成り立ちやその社会的背景の研究を目的とした研究会を2回開催した。

<開催実績>

第7回 10月11日(土)「関西地域における開発教育の歴史」

講師:平田哲(元日本クリスチャン・アカデミー関西セミナーハウス所長)

第8回 3月7日(土)「日本における国際理解教育の歴史と課題」

講師:米田伸次(元帝塚山学院大学国際理解研究所所長)

③「自己評価・ふりかえり指標作成」部会

ESD 実践評価指標の作成と普及 (p.5)を参照

2)第 32 回「開発教育全国研究集会」の開催

日程:8月9日(土)~10日(日)

会場・協力:聖心女子大学(渋谷区)

テーマ:持続可能な社会の実現に向けて教育ができること

参加者数:257名(関係者を除く)

内容:『世界がもし100人の村だったら』の再話を手掛けた池田香代子氏を講演者として招き、望ましい開発のあり方について議論した。様々なテーマを企業、学校、地域などで取り組んでいる全国の実践者の報告を聞き、課題別分科会では、状況を多面的に理解し問題の背景・原因を掘り下げながら、開発教育やESDのあり方について意見交換した。

また、多様な参加者が参加しやすい場づくりのために、IPトークによるノートテイクと手話通訳の導入等、バリアフリー対策を行った。詳細に関しては機関誌『開発教育61号』を参照のこと。



Ⅲ. 情報・出版事業

機関誌の発行、教材等の作成・増刷、ウェブサイトやSNSを活用した情報発信を行った。機関誌は、オピニオン誌という位置づけで会員参加型の内容を目指した。

1)機関誌『開発教育』の編集発行

機関誌『開発教育』第61号を発行した。特集は「政治を語る市民社会」で、社会と未来を考える政治を語る市民社会づくりに向けた開発教育の役割と課題について議論した。

<概要>

タイトル:機関誌『開発教育61号』

特集:「政治を語る市民社会」

発行:2014年12月1日

発行部数:900部

2)新規教材図書の企画編集と制作発行

開発教育に関連する次のような新規の教材や図書の、企画編集や制作発行や増刷をおこなった。またそのために、引き続きその財源や出版社等との実施体制の確保に努めた。

①『貧困と開発』簡易版(仮)

2005年に発行された『貧困と開発～豊かさへのエンパワメント』の改訂・発行を目指して、企画会議を実施した。検討の結果、同教材を参考にしつつもあらたに教材『豊かさって何だろう(仮)』を2015年度に発行すべく、作成準備を進めることとなった。

②『アクション・ハンドブック(仮称)』

重点事業2(p.3)を参照

③グローバル・エクスプレスの発行

時事問題をタイムリーに教室に届け、議論を行うための教材「グローバル・エクスプレス」を作成し無料ダウンロードを行った。尚、本教材は、複数のメディアにも取り上げられた(p.16-17参照)。

<概要>

タイトル:「過激派組織による人質事件」

発行:2015年2月6日

ダウンロード数:200件

④その他図書教材の編集企画・編集協力

上記以外にも図書・教材・資料等の編集企画を進めるとともに、当会関係者による出版企画に対して協力していく。また、既存の教材で在庫が少ないものを改訂・増刷発行を行った。

<改訂発行>

『コーヒークップの向こう側』

2005年に発行された本教材を写真とデザイン、内容の一部を改訂し、発行した。

発行:開発教育協会

発行日:2015年3月27日

判型・頁数:テキスト A4判・32頁、写真8枚(B5カラー)

対象:小学校高学年以上

発行部数:1,000部

助成:(一財)大竹財団
協力:株式会社 オルター・トレード・ジャパン
(ATJ)、NPO 法人 APLA(あぷら)

<単純増刷>

『援助する前に考えよう』 1,000部
『新・貿易ゲーム』 1,000部
『パーム油のはなし』 300部
データを改訂し、グラフなども読みやすくして頁を増やした。
『子どもとできる創造的な対立解決』増補版
1,000部
実践報告とワークシートを掲載誌、増補版とした。

3) 出版物販売

当会発行の教材・図書資料の他、関係団体の発行図書などを受託販売し、自己財源の強化を図った。教職員免許更新の講座を持つ大学やユネスコスクール、スーパー・グローバル・ハイスクールなどへの販促DMを送付した。

<書籍売り上げベスト5>

第1位『ワークショップ版世界がもし100人の村だったら』	886冊
第2位『新・貿易ゲーム』	547冊
第3位『水から広がる学びアクティビティ20』	352冊
第4位『写真で学ぼう!「地球の食卓」』	270冊
第5位『若者と学ぶESD・市民教育 グローバル社会に生きる私たち』	249冊

2015年度より、学校に納入される「ヒルマ教材総合カタログ」に当会発行の教材・図書資料の一部が掲載されることとなった。

4) 広報資料作成

①ウェブサイトの運営

開発教育ポータルサイトとしてウェブサイトでの情報発信を行った。
<2014年4月～2015年3月>
・172,169 セッション 前年: 137,392
・431,302 ページビュー 前年: 365,074
・2.51 平均ページビュー 前年: 2.66
・01:55 分 平均サイト滞在時間 前年: 02:04
・74.26% 新規セッション率 前年: 72.95%
・PC ユーザー 64%(モバイル 36%)
訪問者数・閲覧数ともに毎年増加を続けている。よく読まれているのは「参加型学習」「教材」「イベント」

関連のページ。イベント参加申込や支払い(paypal)はウェブ経由のものが多くを占めてきている。また、モバイル利用者が全体の3分の1を占めるようになった。

②スタッフ・ブログの運営

<2014年4月～2015年3月>
・3,596セッション 前年: 3,813
・6,109ページビュー 前年: 6,265
・1.70平均ページビュー 前年:1.64
・1:32分平均サイト滞在時間 前年:1:23
・76.22% 新規セッション率 前年:72.70%

Facebookの本格運用を始めたためか、昨年を引き続き、訪問者数は減少傾向。しかし、新規訪問者数やページ閲覧数、滞在時間は増加している。よく読まれているのは講師派遣レポート。

③Facebookページの開設

2013年8月に全研広報用に開始し、9月末に公式fbページとしてリニューアルした。主催イベントや教材の紹介のほか、開発教育や国際協力に関連するニュースも配信している。社会課題を扱った記事や、教材・リソースに関する記事への反響が大きい。3月の「いいね!」数:1203(前年比+486)



④メールマガジンの発行

毎月1回のメールマガジンの発行を開始し、主催事業や資料の情報を発信した。3月末現在2,608名(前年比+296名)が登録している。

⑤ツイッターの運営

2011年11月16日にツイッターを導入(アカウント名は@ngoDEAR)。イベント情報や教材関連情報を中心にツイートしている。3月のフォロワー数:515(前年比+125)

⑥資料請求者への対応

ウェブサイト上から無料で資料請求を開始した。全国から請求があり、51件(前年比+4件)。うち2名の新入会があった。

IV. 研修・講座事業

今年度は、隔年で開催している「教材体験フェスタ」の縮小版を開催し、好評を得た。また、講師派遣事業に関しては、単発ではなく複数回の依頼が増えて来ている、また、ファシリテーター養成や学習プログラム作成など、多様なニーズに対応した。

1) 講師派遣事業

政府機関・自治体・教育委員会・学校／大学・自治体国際化協会・NGOなどからの講師派遣依頼に対して、DEARの役職員等を講師として計85件223回派遣した。述べ参加者は約7,000名。依頼先は大学や自治体、NGOなどが多く、内容は各種ワークショップの他、ファシリテーター養成や授業づくりなどの内容が多かった。詳細は資料編を参照。



2) 対立から学ぶワークショップ

普段の生活で起きる様々な対立を気持ちやニーズを認めて解決する「対立から学ぶワークショップ」を開催する予定であったが、担当メンバーの都合が合わず、今回は見送ることとした。

3) mini 教材体験フェスタ

隔年で開催している「教材体験フェスタ」の縮小版として開催。今回はチャリティ企画として、参加費1000円に0円～4000円の間で寄付金を選択するスライディングスケール制を試みた。その結果、参加者95名、寄付金総額13万9000円が集まった。

<概要>

日程:2015年3月28日(土)

会場:ガールスカウト会館(渋谷区)

後援:(公財)ガールスカウト日本連盟

助成:(一財)大竹財団

参加者数(関係者含め):107名

内容:人権、援助、開発、格差、多様性などのテーマを扱った教材を6コマ実施し、教材や進め方について学び、各現場での実施を促すことをねらいとした。参加者からは、実践的なヒントを得られた、毎年開催してほしいという声があり、教材販売と開発教育Q&Aコーナーも好評だった。詳細はウェブサイトの記事を参照。



4) 各種講座

①「開発教育入門講座」

開発教育の基礎的理解を目的とした入門講座を毎月1回、計11回(8月は全研で実施のため)、延べ220名の参加者を得て開催した。

V. 政策提言事業

援助行政や教育行政に働きかけるとともに、NGOのキャンペーンに協力した。開発協力大綱には、開発教育が広報とは別に項目立てされた。

1) 行政に対する政策提言

①援助行政・援助政策に対する政策提言

ODA大綱の見直し協議が行われ、他NGOの協力を得て、働きかけを行い2月に閣議決定された「開発協力大綱」では「開発教育の推進」が広報とは別に項目立てされるなど、当会の声明の一部が反映された。

しかしながら、「貧困解消」の施策が、経済開発・経済成長に偏っていることや、非軍事原則が徹底されない可能性など問題も残されていることから、今後も市民によるモニタリングや働きかけが必要となる。

●「『ODA大綱』の見直しにおける開発教育に関する要望書」の発行・賛同依頼(賛同団体32団体)
http://www.dear.or.jp/oda2014_ver2report.html
(2014年5月16日)

●NGO・外務省定期協議会「ODA 大綱見直しに関する ODA 政策協議会臨時会合」にて、要望書の提出

(2014年5月28日)

●『開発協力大綱(案)』に関する声明』の発表

http://www.dear.or.jp/oda2014_pc.html

(2014年11月14日)

●開発協力大綱案に関する公聴会にて声明の配布(2014年11月15日)

●ウェブにてパブリックコメントの呼びかけ・提出

(2014年11月21日)

②教育行政・教育政策に関する調査・ネットワークづくり

重点事業4(p.3)参照

2)キャンペーンへの協力

①「世界中の子どもに教育を」キャンペーン 2014

学校に通えない子どもたちが世界中にたくさんいる現状に目を向け教育の大切さを同じ時期に考える地球規模のイベント。

日程:2014年4月21日～5月18日

協力内容:教員の手引の作成、助言、広報

参加者数:約7万人

②スタンド・アップ キャンペーン

ミレニアム開発目標(MDGs)達成を後押し、貧困解決をめざすために世界で行われるキャンペーン。

日程:2014年9月13日～10月19日

協力内容:企画助言、広報協力



VI.その他の事業

1)受託事業

①外務省「NGOインターンプログラム」

2014年6月より、標記プログラムを受託し、職員 星久美子がインターンとして育成計画に従い、OJT で研修が行われた。インターンが参加した海外プログラムについては、海外ネットワーク事業(p.6)を参照。また、年度末には、各採用団体のインターンが集まり、成果報告会が行われた。

②学研「国際理解教育教室」

株式会社学研エデュケーショナルが計画する「国際理解教室」で使用する国際理解プログラムの作成を受託し、プログラムの作成や、指導者の研修などを行った。

<概要>

タイトル:国際理解プログラム

テーマ1:世界と友だち～世界の人とこんには

テーマ2:世界の友だちの暮らし～違うところと似ているところ、いろいろだから楽しいね

テーマ3:世界とのつながり～ごちそうさまの向こう側

対象:小学校3～4年生

内容:各テーマに関する約8つの参加型アクティビティを収録

発行:(株)学研エデュケーショナル

③一食を捧げる運動40周年記念教材作成

立正佼成会の「一食を捧げる運動」40周年を記念した教材作成を受託し、『“わかちあい”を広げる一食運動と世界を知るワークショップ』を作成した。

<概要>

タイトル:『“わかちあい”を広げる一食運動と世界を知るワークショップ』

内容:「一食運動」の理念や実践の解説と8つの参加型学習、付録(世界地図等)

発行:立正佼成会

2)外部団体との共催・協力事業

①開発教育連続セミナー2014

「格差・対立から学び、平和な社会を築くために」

<主管:DEAR大阪>

(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センターが共催する開発教育に関する基礎的理解を目的とした連続セミナーの企画・開催に協力した。

<開催実績>

日程:下記の通り

会場:大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)

共催:(公財)大阪国際交流センター、(独)国際協力機構関西国際センター

協力:DEAR大阪

後援:大阪市教育委員会、大阪府教育委員会、(特活)関西NGO協議会

●第1回:8月7日(木)10:00~16:30

特別編・国際教育セミナー

教育・子ども・環境・南北問題・国際協力などをテーマに、NGO/NPO が実施するプログラムを選択し、午前・午後1つずつ体験した。

※この特別編は、(公財)大阪府国際交流財団との共催により、大阪府教職員自主研修支援【大学・専修学校等夏期オープン講座】として実施した。

DEAR 大阪は大阪府立狭山高校とともに「私にもできる世界に向けてのアクション」を実施

講師:佐藤友紀 参加者:30名

●第2回:9月7日(日)13:00~16:30

「開発教育ファシリテータースキルアップ～基本から応用へ～」

講師:山中信幸(柳学園中学高等学校)

渡辺道治(天理小学校)

参加者:34名

●第3回:10月19日(日)13:00~16:30

「フェアトレードの背景と展開～フェアトレードタウン運動を通して～」

「開発教育ファシリテータースキルアップ研修～心で感じて変わる」

講師:土井ゆきこ(名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会)、佐藤友紀(開発教育協会)

参加者:27名

●第4回:11月30日(日)13:00~16:30

「世界がもし100人の村だったら」誕生と、その後の10年」

講師:丸山まり子、友前尚子(関西セミナーハウス 開発教育研究会)

参加者:37名

●第5回:1月11日(日)10:00~16:00

「ネルソン・マンデラの対話法に学ぶ平和構築ファシリテーション」

講師:青木将幸(青木将幸ファシリテーター事務所)

参加者:37名

②日本 YMCA 同盟「地球市民育成プロジェクト」

日本 YMCA 同盟が実施する「地球市民育成プロジェクト」の内容や概要について助言し、カリキュラムの作成、運営にアドバイザーとして協力した。また夏の研修実施にも協力した。

<概要>

タイトル:YMCA 地球市民育成プロジェクト

日時:8月28日(木)~9月2日(火)

場所:日本 YMCA 同盟 東山荘

参加者:70名

③「ESD を活かした学校づくり」研究会

聖心女子大学の永田佳之研究室との協同で、標記研究会を実施した。昨年度、学校づくりに ESD の視点を入れている校長先生にインタビューをし、そのエッセンスをまとめたり、ESD をすすめるための、ヒントをまとめた冊子を執筆し、関係者に意見を求めた。

④上智大学 教育イノベーション・プログラム

上智大学総合人間科学部教育学科・教育イノベーション・プログラム主催の下記セミナーに協力した。

●「水」を題材とした参加型学習ワークショップ

『水から広がる学び』を使ったワークショップを通して、水の問題を多様な視点で考える。

日時:2014年7月12日(土)14:00~17:30

場所:上智大学

講師:西あい・宮崎花衣(DEAR)

参加者:30名



●ヨーロッパの「グローバル・シティズンシップ教育」の取り組み

ヨーロッパですすめられるグローバル・シティズンシップ教育の目的や取り組みについて学ぶ

日時:2014年11月14日(金)16:00~18:00

場所:上智大学

講師:Rilli Lappalainen(リリー ラッパライネン)

CONCORD (The European NGO confederation for relief and development) 理事

Finnish NGO platform Kehys(フィンランドのNGO連合体) 事務局長

司会:中村絵乃(DEAR)

参加者:12名

●ESDに関するユネスコ世界会議報告会

ESDに関するユネスコ世界会議の成果をNGOや社会教育・成人教育団体・研究者にフィードバックする。会議のフォローアップの方策を議論した。

日時:2014年11月14日(金)19:00~21:00

場所:上智大学

共催:日本社会教育学会、社会教育推進全国協議会、ESDJ、DEAR、JNNE、ACCU

参加者:60名



⑤防災教育教材への協力

国土防災技術株式会社による防災教材「EVAG」の作成にあたり、監修を担った。

<概要>

教材名:防災教育教材『EVAG 避難行動訓練【豪雨災害編】』

発行:国土防災技術株式会社

監修:DEAR



3. 組織運営上の重点項目

1) 会報「DEAR ニュース」の編集発行

開発教育の関連情報をはじめ、DEARや各地の「担い手」などの活動状況を紹介することを目的とした会報を5回(4・6・8・10・2月)、各号900部を発行した。

<発行実績>

- ・第165号(発行:4月1日)
特集「ヘイトスピーチから見えてくるもの」
- ・第166号(発行:6月1日)
特集「『やさしい日本語』による情報伝達」
- ・第167号(発行:8月1日)
特集「日中関係の雪解け目指し、さあ市民社会の出番だ」
- ・第168号(発行:10月1日)
特集「『100人村』から、今、考える持続可能な開発」
- ・第169号(発行:2月1日)
特集「『知っている子』の困りごとから子どもの貧困を考える」

2) 認定 NPO 法人化

認定 NPO 法人化に向けて、4月28日に東京都の審査を受け、10月3日に認定 NPO の仮認定の取得を得ることができた。認定 NPO となるために、今後3年間、サポーター制度の導入や寄付を積極的に募ることを行っていく。

3) サポーター制度の導入

継続的に DEAR をサポートしてくれる人を増やし、組織強化につなげるために、12月よりサポーター制度(年4,000円~の定額寄付制度)を開始した。2014年度内のサポーター加入者は7名。

以上

処務の概要

1) 会員に関する事項

< 昨年度報告 >

2015年3月末現在の会員数は、次の通り。ただし、括弧内は昨年末比の数字。

正会員	団体	22団体 (+0団体)
	個人	409名 (+1名)
賛助会員	団体	19団体 (+2団体)
	個人	241名 (+1名)
< 参考 >	(内学生会員: 35名 / +0名)	
	団体会員	41団体 (+2団体)
	個人会員	650名 (+2名)

2) 役員に関する事項

(註: 役員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

● 代表理事

上條直美 (フェリス女学院大学)

● 副代表理事

湯本浩之 (宇都宮大学)

● 常任理事

阿部秀樹 (会社員)

阿部眞理子 ((認定NPO) IVY)

田中浩平 ((財) 千葉YMCA)

● 理事

榎井 縁 (大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラム)

斎藤 聖 (高校教員)

佐藤友紀 (高校教員)

田中治彦 (上智大学)

筒井哲朗 (一般社団法人シェア・ザ・プラネット)

三宅隆史 ((公社) シャンティ国際ボランティア会)

向井一朗 (桜美林大学)

中村絵乃 ((特活) 開発教育協会)

● 監事

岩崎裕保 (帝塚山学院大学)

山崎唯司 (元JICA地球ひろば市民参加協力アドバイザー)

● 評議員

伊藤通子 (東京大学)

枝木美香 ((特活) アーユス=仏教国際協力ネットワーク)

大江 浩 ((公社) 日本キリスト教海外医療協力会)

甲斐田万智子 ((特活) 子ども権利センター/C-rights)

近藤牧子 (早稲田大学)

重田康博 (宇都宮大学)

白木朋子 ((特活) ACE)

田中 博 (参加型評価ファシリテーター)

椿原 恵 (コミュニティコミュニケーション・サポートセンター (Commu))

永田佳之 (聖心女子大学)

檜府暢子 (東京大学附属中等教育学校教員)

浜本裕子 ((学) YMCA学院高等学校)

早川信夫 (日本放送協会)

林 大介 (模擬選挙推進ネットワーク)

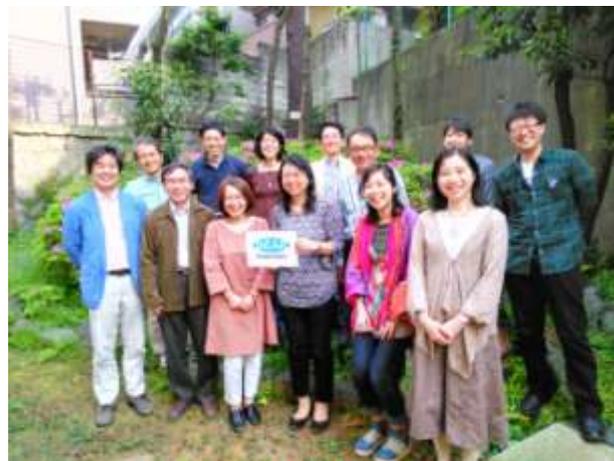
前嶋 葵 ((特活) コモンビート)

三輪敦子 (国連ウイメン日本協会大阪)

本山 明 (大学講師)

諸 英樹 (「動く→動かす」)

横山由利亜 ((公財) 日本YMCA同盟)



3) 会員総会に関する事項

2014年度定期会員総会

と き: 5月24日 (土)

ところ: 富坂キリスト教センター1号館

< 第1部 > 13:00~15:00

ポスト 2015 教育アジェンダに向けたオープンセミナー
～ASPBAE (アジア南太平洋基礎・成人教育協議会)

50周年記念事業～

協力: 教育協力NGOネットワーク (JNNE)

<第2部> 15:30～17:00

2014年度定期会員総会議案

第1号議案 2013年度事業報告および決算報告について

第2号議案 2014～2015年度役員改選について

第3号議案 定款の改訂について

第4号議案 会員規定の改訂について

4)理事会に関する事項

●第1回理事会

と き:5月24日(土)

ところ:富坂キリスト教センター 1号館

議案:

- 1)代表・副代表・常任役員を選任
- 2)各種委員会の設置及び委員選任
- 3)理事の役割分担

●第2回理事会

と き:10月25日(土)13:00～17:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議案:

- 1)上半期事業・決算報告
- 2)中期重点事業について
- 3)サポーター制度について
- 4)その他

●第3回理事会

と き:2月27日(金)19:00～21:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議案:

- 1)2014年度事業報告・決算報告
- 2)2013～2017年度中期重点事業について
- 3)職員研修に関する内規について
- 4)評議員について
- 5)その他

●第4回理事会

と き:4月25日(土)13:00～17:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議案:

- 1)2014年度の事業報告・決算報告
- 2)2015年度事業計画・予算案
- 3)会員総会について
- 4)その他

5)評議員会に関する事項

●第1回評議員会(理事会合同会議)

と き:9月23日(祝)10:30～12:00

ところ:富坂キリスト教センター1号館

議案:

1. DEAR 報告
 - 1)2013～2017年度中期方針について
 - 2)ESD ユネスコ世界会議に向けた様々な動きについて
2. グループディスカッション
 - 1)アクション・ハンドブックについて
3. その他
 - 1)今後の予定について
 - 2)情報交換など

6)2014年度事業評価・2015年度計画会議

2014年度の事業評価と、2015年度の事業計画を共有し、議論した。

と き:2月21日(土)10:00～17:00

ところ:新宿パークタワー

議題:

- ・2014年度事業評価
- ・2015年度事業計画
- ・中期重点事業について

7)各種委員会に関する事項

本年度は、次のような各種委員会が理事会内に設置され、当会の運営や事業について協議を行った。

(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

①DEAR大阪運営委員

委員長:佐藤友紀(高校教員)

委員:阿久澤麻理子(大阪市立大学大学院)／岩崎裕保(帝塚山学院大学)／内田弘志((公財)大阪YMCA)／大森容子((公財)滋賀県国際協会)／談儀善弘(高校教員)／友前尚子(関西セミナーハウス開発教育研究会)／永井道子((財)神戸YMCA)／浜本裕子(YMCA学院高等学校)／榛木恵子((特活)関西NGO協議会)／丸山まり子(地球市民フォーラムなら)／三輪敦子(国連ウィメン日本協会大阪)／山中信幸(柳学園中学校・高等学校)

8)プロジェクト・チームに関する事項

本年度は、以下のような研究会やプロジェクト・チームが設置され、各事業や活動の企画運営にあたった。(註:各種委員は個人の立場で当会の運営に参加しており、括弧内は本人の勤務先や所属先等を参考までに紹介するものです)

<中期重点事業>

●重点事業1:「グローバル化と開発問題」研究会の実施

木下理仁(かながわ開発教育センター)、近藤牧子(早稲田大学)、重田康博(宇都宮大学)、田中治彦(上智大学)、湯本浩之(宇都宮大学)、西あい(DEAR)

●重点事業2:公正な社会づくりへ参加するためのアクションの支援

阿部秀樹(会社員)、近藤牧子(早稲田大学)、田中浩平((財)千葉YMCA)、前嶋葵((NPO)コモンビート)、八木亜紀子(DEAR)

●重点事業4:教育政策に関する調査・ネットワークづくり

浅川和也(平和教育地球キャンペーン)、上條直美(フェリス女学院大学)、小泉雅弘(さっぽろ自由学校「遊」)、湯本浩之(宇都宮大学)、中村絵乃・西あい(DEAR)

<研究会・プロジェクト・チーム>

①開発教育研究会

a)「グローバル化と開発問題」部会

重点事業1メンバー (p.14)参照

b)「開発教育アーカイブ」部会

田中治彦(リーダー/上智大学)、近藤牧子(早稲田大学)、湯本浩之(宇都宮大学)

c)「自己評価・ふりかえり指標作成」部会

上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(早稲田大学)、南雲勇多(早稲田大学大学院)、中村絵乃・西あい(DEAR)

②第32回「開発教育全国研究集会」実行委員会

永田佳之(実行委員長/聖心女子大学)、阿部秀樹(会社員)、石川一喜(拓殖大学)、小野行雄(高校教員)、上條直美(フェリス女学院大学)、近藤牧子(早稲田大学)、斎藤聖(高校教員)、鈴木隆弘(高千穂大学)、曾我幸代(聖心女子大学大学院)、南雲勇多(早稲田大学大学院)、韓朱仙((NPO)コモンビート)、向井一朗(桜美林大学)、本山明(大学講師)、中村

絵乃・西 あい・星久美子(DEAR)

③機関誌「開発教育」編集委員会

近藤牧子(特集担当/早稲田大学)、磯野昌子(かながわ開発教育センター)、上條直美(フェリス女学院大学)、斎藤聖(高校教員)、奈良崎文乃(国際NGOプラン・ジャパン)、二ノ宮リムさち(東京農工大学)、野口扶美子(ロイヤルメルボルン工科大学大学院博士課程)、中村絵乃・西あい(DEAR)

④「貧困と開発」簡易版」編集委員会

近藤牧子(早稲田大学)、西あい(DEAR)

⑤アクションハンドブック作成チーム

重点事業2メンバー(p.14)参照

⑥「開発教育入門講座」チーム

大野のどか(リーダー/公財)横浜YMCA)、定光香(会社員)、向井一朗(桜美林大学)、米田和希子(大学院生)、韓朱仙((特活)コモンビート)、逆瀬川愛貴子(大学院生)、佐々木美都((公財)日本YMCA同盟)、福島智子(桜美林大学)、八木亜紀子(DEAR)

⑦会報「DEARニュース」編集委員会

阿部秀樹(リーダー/会社員)、甲斐和歌子(NGO職員)、片山直美(会社員)、清水千絵(団体職員)、須磨珠樹(会社員)、滝本雅章(DEAR事務局ボランティア)、田中祥一(高校教員)、出口雅子(NGO職員)、菊池哲佳(団体職員)、氷室麻里子(会社員)、松下彩(会社員)、三宅麻子(団体職員)、八木亜紀子(DEAR)

9)職員に関する事項

事務局長	中村 絵乃(有給・常勤・専従)
事務局次長	西 あい(有給・常勤・専従)
事業担当	八木 亜紀子(有給・常勤・専従 (6月まで非常勤、7月から常勤))
事業担当	宮崎 花衣(有給・非常勤・嘱託 (6月まで))
経理・総務担当	大久保 美智彦(有給・非常勤・嘱託)
総務担当	中田 洋子(有給・非常勤・嘱託)
事業担当	星 久美子(有給・非常勤・嘱託)

10)インターン・ボランティアに関する事項

今年度に事務局で受け入れを行ったインターン・ボランティアは次の通り。

<事務局インターン>

星川亜紗美(学習院女子大学、2014年5月～2014年8月)
岡田直樹(国際基督教大学、2014年9月～2014年11月)
鈴木友也(慶応大学、2015年3月)

<事務局ボランティア>

滝本雅章(社会人、2014年4月～2015年3月)
佐藤雄介(早稲田大学、2014年4月～2015年3月)
大塚景子(社会人、2014年4月～2015年3月)
福島智子(社会人、2014年4月～2015年3月)
石田真理子(社会人、2014年4月～2015年3月)

また、第32回開発教育全国研究集会には27名、mini教材体験フェスタには13名のボランティア参加があった。

11) 会員団体に関する事項

今年度DEARが会員として参加した団体は次の通り。

<正会員>

- ・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE)
- ・(特活)「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)
- ・「動く→動かす」
- ・アジア南太平洋基礎・成人教育協議会(ASPBAE)

<賛助会員>

- ・(特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会

以上

資料編

資料1: 出版・編集・取材協力など

<書籍>

①『環境教育と開発教育 実践的統一への展望: ポスト2015のDESDへ』(2014年7月)
発行:筑波書房
編著:鈴木敏正・佐藤真久・田中治彦
監修:阿部治・朝岡幸彦
内容:環境教育と開発教育を統一的に議論して、2015年以降のESDについて論じている。代表理事の上條直美、副代表理事の湯本浩之、理事の田中治彦、監事の岩崎裕保が執筆している。

②『原発事故を子どもたちにどう伝えるかーESDを通じた学び』(2015年3月)
発行:合同出版
編著:阿部治
内容:代表理事の上條直美と職員の八木亜紀子が第7章「教材を通じた議論の場づくりー3・11と開発教育協会(DEAR)の取り組み」に寄稿

<雑誌・レポート>

①考える主権者をめざす情報誌『Voters』No.21 (2014年8月)
発行:(公財)明るい選挙推進協会
内容:理事の田中治彦が「18歳投票権・選挙権と市民教育の課題」をテーマに寄稿した。「これからの主権者を育成する教育には、政治的知識を増やすだけの狭い公民教育ではなく、グローバルな視野をもった参加体験型の市民教育が求められる

のである」として、DEARの教材が紹介されている。

②TOKYO WEEKLY (Vol. L X V II No. 8 Sep. 3 2014) (2014年9月)
発行:東京ロータリークラブ
内容:事務局長の中村絵乃が東京ロータリークラブの定例会でおこなった卓話「グローバル人材とはー地球市民の育成を目指して」が掲載された。

③「国連持続可能な開発のための教育の10年(2005～2014年) ジャパンレポート」(2014年11月)
発行:ESDの10年関係省庁連絡会議
内容:ジャパンレポートの第3部「日本の優良事例」にDEARの活動が掲載された。

④『寄付教育調査報告書』(2015年2月)
発行:NPO法人日本ファンドレイジング協会
内容:DEARの教材『新・貿易ゲーム』『世界がもし100人の村だったら』『パーム油のはなし』が紹介されたほか、コラム「なぜ、参加型学習？」を寄稿した。

⑤『中等教育資料』平成27年3月号(第946号) (2015年3月)
発行:文部科学省教育過程課編集・学事出版

内容:最新号の「教育小景コーナー」に事務局長の中村絵乃が「世界への関心を引き出す～ファッションのすすめ」を寄稿した。

<新聞>

①朝日新聞(名古屋本社)朝刊 (2014年11月8日)

題目:原発の負の面記述なし 政府文書に専門家指摘

内容:「持続可能な開発のための教育(ESD)」について、政府がまとめた「ジャパンレポート」について、当会理事の田中治彦の発言と取り組みが紹介された。

②毎日新聞朝刊 (2014年11月17日)

題目:ユネスコスクールはいま:ESD 実践校世界大会と世界会議 国情反映、取り組みに差

内容:11月10～12日に開催された「持続可能な開発のための教育(ESD)のためのユネスコ世界会議」のレポートと共に、監事の岩崎裕保発言が紹

介された。

③朝日新聞夕刊 (2015年2月18日)

題目:人質事件、授業で考えた

内容:2月6日に公開したグローバル・エクスプレス教材『過激派組織による人質事件』の取材記事が掲載された。立命館宇治中学・高校(京都)の授業の紹介のほか、教材および事務局長の中村絵乃と職員の八木亜紀子のコメントが掲載された。

④中日新聞夕刊 (2015年2月23日)

題目:人質事件どう教える

内容:2月6日に公開したグローバル・エクスプレス教材『過激派組織による人質事件』の取材記事が掲載された。県立赤穂高校(長野)の授業の紹介のほか、教材および職員の八木亜紀子のコメントが掲載された。

以上

資料2:「名義後援」の実績一覧(計9件)

①立正佼成会青年本部「第45回 青年の日」
(2014年5月18日)

②(公財)滋賀県国際協会「平成26年度交際教育教材体験フェア」(2014年6月7日)

③(公財)日本クリスチャン・アカデミー 関西セミナーハウス活動センター「2014年度 開発教育セミナー」(2014年7月～12月)

④(公財)武蔵野市国際交流協会「夏期教員ワークショップ2014」
(2014年7月30日～7月31日)

⑤(特活)アフリカ日本協議会「TALK FOR AFRICA～コンゴ共和国で森と動物を守る人たちの活動」(2014年8月26日)

⑥上智大学総合人間科学部教育学科 教育イノベーション・プログラム「18歳選挙権と市民教育の課題」(2014年12月6日)

⑦宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター「第6回グローバル教育セミナー～子どもの貧困とグローバル教育」(2014年12月11日)

⑧(公財)滋賀県国際協会「平成26年度 国際教育ワークショップ」(2015年1月17日)

⑨NPO法人日本ファンドレイジング協会「寄付教育オープンシンポジウム2015」
(2015年2月14日)

以上

資料3: 「講師派遣」の実績一覧 (計 85 件 223 回)

1「新入生オリエンテーション」(2014.4.4/計6回)

主催: 流通経済大学 新松戸キャンパス

内容: お互いを知りあう・世界を知る/貿易ゲーム

対象: 新松戸校 新入生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・八木亜紀子(事務局員)

2「新入生オリエンテーション」(2014.4.5/計3回)

主催: 流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス

内容: お互いを知りあう・世界を知る/新・貿易ゲーム

対象: 龍ヶ崎校 新入生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・近藤牧子(評議員)

3「国際教育の学習」(2014.5.10)

主催: 横浜市立平楽中学校

内容: グローバル・エクスプレス(東京五輪)

対象: 2年生か3年生の1クラス

派遣者: 井手将夫(グローバルエクスプレスチーム)

4「CSR セミナー」(2014.5.13)

主催: 日立ソリューションズ

内容: コーヒーカップの向こう側

対象: 職員

派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

5「国際理解教育教室」(2014.5.19)

主催: 豊中市立第十六中学校

内容: 世界がもし100人の村だったら

対象: 中学1年生

派遣者: 丸山まりこ(DEAR 大阪運営委員)

6「平成26年度国際教育主任研修会」(2014.5.20)

主催: さいたま市教育委員会 学校教育部 指導1課

内容: 地球の食卓

対象: さいたま市小・中・特別支援学校教員(国際教育主任)

派遣者: 星久美子(事務局員)

7「ゲーミフィケーション学会」(2014.5.31)

主催: ゲーミフィケーション学会

内容: ファシリテーションについて講演

対象: 一般

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

8「平成26年度 教師海外研修 第一次事前研修」(2014.6.8)

主催: (独) 国際協力機構 東北支部

内容: 異文化体験・フォトランゲージをテーマとしたワークショップ

対象: 教師海外研修参加教員16名 および一般参加教員数名

派遣者: 向井一郎(理事)

9「小中学校の教職員研修会」(2014.6.9)

主催: 千葉県 東総支部 国際理解教育部会

内容: 地球の食卓

対象: 小中学校の教員

派遣者: 星久美子(事務局員)

10「授業 国際理解教育」(2014.6.9)

主催: 文京学院大学

内容: 新・貿易ゲーム

対象: 大学生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

11「フィールドワーク国際セミナー」(2014.6.14/計2回)

主催: 鎌倉女学院高等学校

内容: パーム油の話

対象: 高校1年生

派遣者: 星久美子(事務局員)

12「フィールドワーク国際セミナー」(2014.6.14)

主催: 鎌倉女学院高等学校

内容: フードマイレージ

対象: 高校1年生

派遣者: 西あい(事務局次長)

13「国際開発入門コース」(2014.6.14)

主催: 一般財団法人 国際開発機構

内容: 講義

対象: 国際開発協力事業従事者・希望者

派遣者: 三輪敦子(評議員)

14「ESD フォーラム 2014」(2014.6.14)

主催: 環境省中部環境パートナーシップオフィス

内容: ESD についてゲストトーク

対象: 教員、一般

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

- 15「品川シルバー大学」(2014.6.16)
 主催: 品川区地域振興事業部 文化スポーツ振興課
 生涯学習係
 内容: 地球の食卓
 対象: 品川シルバー大学生(60歳以上の区民)
 派遣者: 西あい(事務局次長)
- 16「教師海外研修(エチオピア)派遣前研修」
 (2014.6.21)
 主催: 独立行政法人 国際協力機構 四国支部
 内容: 開発教育ワークショップ
 対象: 平成26年度教師海外研修参加教員5名及び過去の研修参加者
 派遣者: 向井一朗(理事)
- 17「地域ミーティング」(2014.6.21)
 主催: ESD-J
 内容: ESDの進め方に関するコメント
 対象: 一般
 派遣者: 西あい(事務局次長)
- 18「平成26年度国際環境協力基本研修」(2014.6.23)
 主催: 環境省環境調査研修所
 内容: 援助する前に考えよう
 対象: 地方自治体職員(国の職員も数名)
 派遣者: 西あい(事務局次長)
- 19「上智大学杉村ゼミ」(2014.7.2)
 主催: 上智大学 短期大学部 杉村ゼミ
 内容: 開発教育入門
 対象: 杉村ゼミ学生
 派遣者: 西あい(事務局次長)
- 20「スーパー・グローバル・ハイスクール ワークショップ」
 (2014.7~11/計3回)
 主催: 順天高等学校
 内容: 地球の食卓、援助する前に考えよう、新・貿易ゲーム
 対象: SGHクラス(高校1年生)
 派遣者: 西あい(事務局次長)、星久美子(事務局員)
- 21「水のワークショップ」(2014.7.12/計2回)
 主催: 上智大学
 内容: 水から広がる学び
 対象: 一般
 派遣者: 西あい(事務局次長)・宮崎花衣(水教材作成メンバー)
- 22「グローバルリーダー育成の戦略的プログラム」
 (2014.7.14, 21/計2回)
 主催: 神奈川県立横浜国際高等学校
 内容: 世界がもし100人の村だったら
 対象: 高校1年生
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)・星久美子(事務局員)
- 23「食から世界へ」(2014.7~2015.1/計6回)
 主催: フリースペース えん
 内容: 食から世界へ ワークショップ
 対象: えんに来る子ども、大人
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)、星久美子(事務局員)
- 24「2014年度第1回国際協力推進員 新着任講習会」
 (2014.7.17)
 主催: JICA 国内事業部
 内容: 入門講座
 対象: 着任後1年未満の国際協力推進員
 派遣者: 西あい(事務局次長)
- 25「平成26年度人権教育担当者スキルアップ研修」
 (2014.7.18)
 主催: 栃木県教育委員会事務局総務課 人権教育室
 内容: 人権ワークショップ
 対象: 教員研修担当者
 派遣者: 西あい(事務局次長)
- 26「国際理解セミナー」(2014.7.19)
 主催: 世田谷区生活文化部文化・国際課
 内容: 世界がもし100人の村だったら
 対象: 一般
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)
- 27「国際交流塾」(2014.7.25)
 主催: 大阪国際交流センター
 内容: 旅の相互性
 対象: 一般
 派遣者: 佐藤友紀(理事)
- 28「地球市民育成プロジェクト 事前研修」(2014.7.29)
 主催: (公財)日本YMCA 同盟
 内容: 研修の説明など
 対象: 学生
 派遣者: 中村絵乃(事務局長)
- 29「わらべの集い」(2014.8.6)
 主催: 白井市青少年女性センター
 内容: 世界がもし100人の村だったら

対象：小学1～6年生
派遣者：中村絵乃(事務局長)・中田洋子(事務局長)

30「JICA 教師海外研修講座」(2014.8.7-8 12.6-7
2015.3.7-8/計5回)

主催：JICA 地球ひろば
内容：授業づくりなどへのアドバイス
対象：教師海外研修参加者
派遣者：中村絵乃(事務局長)

31「国際教育セミナー」(2014.8.7)

主催：JICA 関西
内容：新・貿易ゲーム
対象：教員・一般
派遣者：佐藤友紀(理事)

32「国際理解ワークショップ」(2014.8.9)

主催：(一財)岡山県国際協力協会
内容：地球の食卓(フードマイレージ)
対象：学校教員、NGO スタッフ、一般
派遣者：山中信幸(DEAR 大阪運営委員)

33「油ヤシプランテーションに関わる NGO 自主勉強会」
(2014.8.21)

主催：熱帯林行動ネットワーク(JATAN)
内容：パーム油の話
対象：NGOスタッフ
派遣者：八木亜紀子(事務局長)

34「ESD フォーラム 2014」(2014.8.22)

主催：ESD の 10 年世界の祭典
内容：パネリスト
対象：一般
派遣者：上條直美(代表理事)

35「東京ロータリー一定例会」(2014.9.3)

主催：東京ロータリークラブ
内容：若者の育成に関する講演
対象：ロータリアン
派遣者：中村絵乃(事務局長)

36「開発教育連続セミナー第2回」(2014.9.7)

主催：JICA 関西 ほか
内容：ファシリテーション
対象：一般
派遣者：山中信幸(DEAR 大阪運営委員)

37「地域探査を含む実習」(2014.9.10)

主催：山梨学院大学 FD 委員会
内容：アクションリサーチ
対象：大学教員
派遣者：西あい(事務局次長)

38「国連 ESD の 10 年円卓会議」(2014.9.17)

主催：外務省 国際協力局 地球環境課
内容：ESD 円卓会議出席
派遣者：田中治彦(理事)

39「青年研修事業」(2014.10.2)

主催：(独)国際協力機構(JICA)
内容：「開発とは何か、市民団体の役割～開発教育」
対象：ベトナム国公務員
派遣者：上條直美(代表理事)

40「国際ゼミ」(2014.10.3)

主催：クラーク記念国際高等学校(東京キャンパス)
内容：パーム油の話
対象：高校生
派遣者：星久美子(事務局長)

41「国際科スペシャルウィーク」(2014.10.6、2015.3.19
/計2回)

主催：川崎市立橘高等学校
内容：パーム油の話、援助する前に考えよう
対象：国際科2年生
派遣者：星久美子(事務局長)

42「広島県立尾道東高等学校 平成 26 年度修学旅行」
(2014.10.7/計4回)

主催：(株)JTB 中国四国 福山支店
内容：世界がもし 100 人の村だったら
対象：高校2年生
派遣者：中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・
八木亜紀子(事務局長)・星久美子(事務局長)

43「広島県立尾道東高等学校 平成 26 年度修学旅行」
(2014.10.7)

主催：(株)JTB 中国四国 福山支店
内容：100 人村ワークショップのふりかえり
対象：高校2年生
派遣者：八木亜紀子(事務局長)

44「国際NGO論」(2014.10.8)

主催：龍谷大学
内容：世界がもし 100 人の村だったら

対象: 大学生 35 名
派遣者: 佐藤友紀(理事)

45「100 人村 体験型ワークショップ」(2014.10.15)
主催: 日野市立七生緑小学校 PTA 家庭教育学級
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 小学校 1~6 年生
派遣者: 星久美子(事務局員)

46「開発セミナー」(2014.10.15)
主催: 一般財団法人 国際開発機構
内容: 援助する前に考えよう
対象: 国際開発協力事業に携わっている・携わる方
派遣者: 西あい(事務局次長)

47「フードロスのしくみを子どもたちと学ぶ講師養成講座」(2014.10.17)
主催: 特定非営利活動法人 フードバンク岡山
内容: 地球の食卓
対象: 一般、学童保育指導員
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

48「開発教育連続セミナー第3回」(2014.10.19)
主催: JICA 関西
内容: フェアトレード
対象: 一般
派遣者: 佐藤友紀(理事)

49「日本政策学校 講座」(2014.10.26、11.9、11.22、11.29/計4回)
主催: 一般財団法人 日本政策学校
内容: エネルギー、100 人村、グローバル・エクスプレス、コーヒー
対象: 政策学校受講生と一般
派遣者: 中村絵乃(事務局長)・西あい(事務局次長)・八木亜紀子(事務局員)

50「多文化共生教育推進事業~コリア・ベトナム月間より~」(2014.10.30)
主催: 神戸市教育委員会
内容: フードマイレージほか
対象: 5年生児童・担任教師
派遣者: 山中信幸(DEAR 大阪運営委員)

51「本音でダイアログ・違いを力に」(2014.10.31)
主催: アジアの未来への展望 NGO 協議会 水グループ
内容: 水から広がる学び

対象: 企業、NGO など
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

52「東南アジア青年の船」(2014.11.6)
主催: (一財)青少年国際交流推進センター
内容: 新・貿易ゲーム
対象: ASEAN 青年の船参加者
派遣者: 星久美子(事務局員)

53「ちよだ国際市民講座 2014・世界を考えよう」(2014.11.12)
主催: 千代田区 政策経営部 国際平和・男女平等人権部
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 一般・高校生
派遣者: 八木亜紀子(事務局員)

54「ESD フォローアップ会合」(2014.11.13)
主催: ESD-J
内容: 全体会司会
対象: 一般
派遣者: 上條直美(代表理事)

55「ワークショップ体験」(2014.11.13)
主催: 尼崎ユネスコ協会
内容: フェアトレード(チョコレート)
対象: ユネスコ協会会員、教育関係者、市民
派遣者: 佐藤友紀(理事)

56「NPO セクター会議」(2014.11.22)
主催: 認定特定非営利活動法人 日本 NPO センター
内容: 分科会パネリスト
対象: 一般
派遣者: 中村絵乃(事務局長)

57「開発教育連続セミナー第4回」(2014.11.30)
主催: JICA 関西、他
内容: 世界がもし 100 人の村だったら
対象: 一般
派遣者: 丸山まりこ(DEAR 大阪運営事務局)

58「開発教育連続セミナー第4回」(2014.11.30)
主催: JICA 関西、他
内容: 地球の食卓
対象: 一般
派遣者: 友前尚子(DEAR 大阪運営委員)

59「国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト」
(2014.12.4)

主催: JICA 地球ひろば

内容: 高校生作品の審査

対象: 高校生

派遣者: 中村絵乃(事務局長)

60「国際交流塾」(2014.12.5)

主催: 大阪国際交流センター

内容: 地球市民ランキング

対象: 一般

派遣者: 佐藤友紀(理事)

61「食から世界へ」(2014.12.6、1.27、1.30/計3回)

主催: 北区教育委員会

内容: 100 人村、地球の食卓、グローバル・エクスプレス(オリンピック)

対象: 区内在住・在勤・在学の方

派遣者: 八木亜紀子(事務局長)

62「国際理解教育指導者セミナー」(2014.12.6-7/計2回)

主催: JICA 駒ヶ根

内容: プログラムづくり

対象: 教員

派遣者: 西あい(事務局次長)、星久美子(事務局長)

63「桜丘中学・高等学校教員研修」(2014.12.11)

主催: 桜丘中学・高等学校

内容: 地球の食卓+解説

対象: 教職員

派遣者: 中村絵乃(事務局長)・星久美子(事務局長)

64「教員研修会」(2014.12.11)

主催: 宮城県高等学校国際教育研究会

内容: 水から広がる学び

対象: 高校教師

派遣者: 八木亜紀子(事務局長)

65「高校生国際協力実体験セミナー」(2014.12.20-21)

主催: JICA 関西

内容: 開発教育入門、パネルディベート

対象: 高校生

派遣者: 佐藤友紀(理事)

66「国際理解入門セミナー」(2014.12.21)

主催: JICA 横浜

内容: 新・貿易ゲーム

対象: 神奈川県内の高校生

派遣者: 星久美子(事務局長)

67「ESDに関するDVD作成」(2014.12.23)

主催: ESD-J

内容: 撮影

派遣者: 西あい(事務局次長)

68「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」
(2014.12.26)

主催: 公益財団法人 大阪国際交流センター

内容: 世界がもし100人の村だったら

対象: 高校生

派遣者: 佐藤友紀(DEAR 大阪運営委員)

69「H26 国際教育ワークショップ」(2014.1.17)

主催: 滋賀県国際協会

内容: 水から広がる学び

対象: 教育関係者、国際教育に関心のある方

派遣者: 宮崎花衣(水教材作成チーム)

70「国際理解教室」(2015.1.31)

主催: 山梨県社会教育振興会 山梨学院生涯学習センター

内容: 地球の食卓

対象: 山梨県社会教育振興会加盟団体会員、社会教育・地域振興活動などの関係者、一般市民

派遣者: 西あい(事務局次長)、星久美子(事務局長)

71「ワン・ワールド・フェスティバル」(2015.2.8)

主催: ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会

内容: フェアトレード(チョコレート、フェアトレードタウン)

対象: 一般

派遣者: 佐藤友紀(理事)

72「ひろしまグローバル人材養成講座第3回」
(2015.2.15)

主催: ひろしま国際センター

内容: 地球の食卓、数種類の調理、試食

対象: 一般

派遣者: 八木亜紀子(事務局長)

73「わたしがもし、世田谷に住む外国人だったら」
(2015.2.20)

主催: 世田谷区生活文化部文化・国際課

内容: バーンガ、読めないお知らせなど

対象: 世田谷区職員

派遣者: 中村絵乃(事務局長)、星久美子(事務局長)

